

「立志祭」

市内の全小学校で

藤樹先生は十一歳（満で九歳）の時、中国の古典である『大学』を読み、「自天子以至於庶人皆以修身為本（天子より以て庶人に至るまで皆是に皆身を脩むるを以て本と為す）」の言葉に心を引かれて、「生涯、学問に精進して聖人になろう」と、志を立てられました。

そこで、藤樹先生の誕生日である三月七日ごろに、市内全小学校では三年生を対象に『立志祭』を行っています。（一小学校では、四年生が二分の一人式として実施）そこでは、藤樹先生の生き方や教えを学び、自分自身を振り返るとともに、自分の夢や志を抱き、生き方を考える機会とするものです。このところ、三年生どうしの交流を兼ねて中学校区内で合同の立志祭を開催するところが増えています。



安曇川地区での立志祭は、四部の構成になっていました。第一部「藤かげの道を探しよう」で

藤樹先生に学ぼう

は、藤樹記念館、陽明園、墓所、書院、良知館を分かれて見学したり説明を受けたりします。第二部は安曇川公民館へ移動し、立志の式「自分の志を立てよう」です。この場では、『大学』の「自天子以至於庶人：」の唱和、『私の志』の発表、北川暢子先生による藤樹紙芝居「大野了佐を教える」をもとにした講話、藤樹かるた大会などが行われました。第三部は各学校へ帰って立志祭給食（藤樹先生も大洲で食べたと言われる「いもたき」）で当時をしのびます。第四部は、家に帰って立志祭を振り返りながらお家の人とお話をすることになっています。

安曇川地区では、それぞれの『立志のことば』は一週間書院に奉納され、その後記念館に保存されて、二十歳の成人式で「二十歳への手紙」として受け取ることにしています。子どもたちにとっては一生忘れられない『立志祭』であらうと思います。



プロジェクターでの紙芝居を鑑賞、お話を聞く。

左表は、市内小学校での『立志祭』の実施状況です。

地区	月 日	会 場	参加校等
マキノ	3月 6日	マキノ西小	4小学校
今 津	2月 21日	今津東小	東・西小
	3月 7日	今津北小	今津北小
朽 木	3月 6日	朽木東小	東・西小
安曇川	3月 7日	安曇川公民館	3小学校
	3月 13日	広瀬小	広瀬小学校
高 島	2月 12日	高島小	(4年生)
新 旭	2月 28日	新旭北小	南・北小

※広瀬小は、インフルエンザの流行のため単独実施。

（三田村治夫）

読んでみませんか…

『安岡正篤「心に残る言葉」』

（藤尾秀昭著 致知出版社）

高 橋 志 郎

一昨年の暮れに縁あって標記の本を手に入れた際、一気に読んでしまい、また要点を纏めました。

安岡先生はご存じの通り、中江藤樹先生のこととはよく研究されていて、昭和初期には藤樹書院も来訪されているそうです。

この本では「本物にしばれる」という節の中で、次のような安岡先生の言葉を引用されています。「人は何にしばれるか。何にしばれるかによって、その人は決まる。」

中江藤樹は『論語』と王陽明にしばれていた。人間は本物にしばれなければならない。

明治三十一年に生まれ、昭和五十八年まで日本の政財界のリーダーの精神的な支柱となった安岡氏が、三百年以上に四十歳で亡くなった中江藤樹先生から、時代を超えてこのような言葉を残されることに驚嘆します。

この本には安岡先生の「人物学」のエッセンスが記されており、ぜひ、ご一読をお薦めいたします。